



ところが、これで 困ったことがおきたんよ。

と言っているのは……、

大杉がひかる前は、

観音山のふもとには「安芸のひとつ火」と、

いわれている火があって、

漁師さんたちは、この一つ火を頼りに

港に帰っていたんよ。

「あかりが、二つもあつたんじゃあ
どうもまちがえて困るのう。」

「あの杉は
切ってもらわにゃあいけんで。」

そこで 人々は、
いろいろ相談して
この大杉を切ることにしたんじゃ。



むら　ひとびと　あさはや
村の人々は、朝早くから
み　きよ　みん　おおす　き　はじ
身を清めて　みんなで大杉を切り始めたんよ。

「根元が、こがいに　張　とりま　あ　のう。
どがいするがええかのう。」

「そ　う　じ　ゃ　の　う。
こ　っ　ち　か　ら　も、あ　っ　ち　か　ら　も、
み　ん　な　で　一　緒　に　切　ら　ん　に　ゃ　あ、
こ　が　い　に　大　き　な　木　は　切　り　ゃ　あ　せ　ん　で　え。」

「ほんまじゃ、ほんまじゃ。
ほいじゃあ　わしは　ここから切るで。」

